# 学習指導案

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 影浦亮平、丹羽美咲、三上真葵 | 所属 | 大学、高校 |
| 実践授業科目 | 倫理、現代社会 | 対象者属性 | 大学 1 年、高校 2 年 |
| 実施期間 | 10 月 5 日(金)：影浦先生 | 10 月 10 日(水)13 日(土)：三上 | |

＜実施概要＞

１．単元名

ファッション業界の裏側から社会のあり方を考えよう

２　教科・領域との関連性

大学ー倫理学、

高校ー現代社会

３　取り扱う学習領域と SDGS 各ゴールとの関連性

１　貧困をなくそう

12　つくる責任つかう責任

10　人や国の不平等をなくそう

４　実施理由・背景

　学生達は、留学経験者もおり、好奇心が強く、海外の情勢や日本との格差、開発途上国支援などに興味をもっている。一方、比較的恵まれた環境で過ごしている者が多く、現地の現状や課題などを正確にとらえきれず、他人事として格差や貧困の問題をみなしている学生もいる。本授業では、学生にとって身近な洋服が製造される現場の裏側から、格差や貧困について学ぶ。その際、世界の工場の事例から、日本国内の類似例についてまで考えさせることで、学生たちがそれらの構造的な問題を把握し、自分ごととしてとらえ、将来的には行動の変容があることを目的とする。

５　実施にあたっての学習目標

①　ロールズ、ハイエク、ベンサムの考えを理解したうえで、理想の社会の在り方について根拠をもって述べることができる。

②　安い値段で購入できる洋服が製造される背景について理解し、搾取の構造について理解することができる。

③　異なる立場の視点にたち、他の生徒の発表を整理するなかで、利点と課題について多面的に考えることができる。

④　社会課題を自分ごととしてとらえ、状況を改善するための方策について考えられるようになる。

６　評価基準例

＊アンケートとワークシートの記述で判断する。

(行動や意識の変容があるか、否か。)

7．展開

◎1 時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 使用教材 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(10 分) | 1．理想とする社会について考えよう。<br>(１)3 人の哲学者の考えを基に、自分の理想とする社会について考える。<br>・ロールズ、ベンサム、ハイエクの提案する理想の社会についての文を読む。<br>①ロールズ<br>「経済的弱者に金銭的援助をすることは正しい。ただし、それぞれの人間の自由な競争は保障されるべきである。」<br>②ハイエク<br>「同じ立ち位置からスタートできることが大切であり、平等なルールはいつ、誰にでも適用されるべきである。」<br>③ベンサム<br>「不幸な人の数をできる限り減らし、多くの人が幸せになることを優先する社会を築くことがベストである。（＝最大多数の最大幸福）<br>・自分が理想と考える人物をランキングづけして選び、その理由をワークシートにまとめる。<br>(２)他の生徒と考えを共有する。<br>・隣同士の生徒で、自分の選んだ人物と、選んだ理由について説明し合う。<br>・ワークシートに簡単にメモする。 | ・質問があるか確認する。<br>・根拠をもとに、理想の社会を表す人物を選ぶように伝える。 | ・ワークシート<br>・パワーポイント |
| 展開<br>(10 分) | 2．ファッション業界の裏側について知る。<br>(１)SDGsTV の動画を視聴する。<br>・ワークシートの設問に答えながら、重要だと思う箇所をメモする。<br>・設問の内容を問い、確認する。<br>私たちの着ている服が SDGsTV のようにつくられているのはなぜだろう？ | ・搾取の構造があることに気づかせる。 | ・ SDG s TV(動画)<br>・ワークシート<br>・パワーポイント |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (10 分)<br><br><br><br><br><br><br>(5 分)<br>(5 分) | ３．搾取の構造について知る。<br>・各グループで①～③の役割に分かれ、本やインターネットで調べる。<br>①企業の立場からみた利点と課題<br>②労働者の立場からみた利点と課題<br>③消費者の立場からみた利点と課題<br><br>・調べた内容をグループで共有する。<br>・ワークシートにまとめを記入する。 | ・1 グループ６人前後。<br>・指定したグループで調べるように伝える。<br>・机間巡視し、行き詰っているグループには助言する。<br>・調べ方や参考となるＵＲＬを示す。 | |
| まとめ<br>(5 分) | ４．１時間のふりかえり<br>・次時の予告と調べるべき内容について確認する。 | | |

◎2 時間目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(5 分) | １．前時の復習とプレゼン方法の確認<br>・動画の復習と１時間の進め方についての説明を聞く。 | | |
| 展開<br>(15 分)<br><br><br><br><br><br>(10 分)<br><br><br><br><br>(10 分) | ２．ファッション業界の裏側について発表<br>（１）与えられた以下のテーマについてグループで調べる。<br>①搾取の構造について<br>②ファッション業界以外での類似例<br>③日本のファッション業界での事例<br><br>(２)調べた内容について、プレゼンをする。世界と日本の搾取構造の共通点について考える。<br>・調べた事例についてとりあげ、気になる点や共通点をあげる。<br>[1 位としたランキングの哲学者の考えからファッション業界の現場について考えよう。<br>(A)どこに問題があるか。<br>(B)社会がどのようにあるべきか。]<br><br>・(A)(B)をふまえ、誰に一番共感できるか、自分の考えに近いものを１つ選ぶ。 | ・各テーマ１グループ２分でプレゼンする。 | ワークシート |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・初めの授業時と同様、理由(根拠や例を示しながら)説明できるように促す。 | |
| まとめ<br>(10 分) | 3．理想の社会に向けて、できることを考える。<br>(１)現在の日本や世界での動きについて紹介する。<br>・ダッカでの縫製工場のビル崩落事件をきっかけに始まったファッションレボリューションについて紹介する。<br><br>(２)今後についてできることを考える。<br>・自分が今の段階でできると思うことを、ワークシートにまとめ、アンケートに記入する。 | | |